

6月17日 数学II 演習 (解答)

5.1 問題

次の連立一次方程式の一般解を (存在するならば) 求めよ.

$$(1) \begin{pmatrix} -1 & 1 \\ 1 & 0 \\ -3 & 2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

$$(2) \begin{pmatrix} 1 & -1 & 0 \\ 4 & -2 & 2 \\ -1 & 0 & -1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ -2 \\ 0 \end{pmatrix}$$

$$(3) \begin{pmatrix} -4 & 1 & 3 & -7 \\ 1 & -2 & 1 & 0 \\ -1 & 0 & 1 & -2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \\ w \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 6 \\ -5 \\ 1 \end{pmatrix}$$

$$(4) \begin{pmatrix} 3 & 2 & -2 & 0 \\ 6 & 3 & -6 & -2 \\ 3 & 3 & 0 & -1 \\ -4 & -4 & 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \\ w \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 9 \\ 13 \\ 11 \\ -15 \end{pmatrix}$$

$$(5) \begin{pmatrix} -1 & 0 & 4 & 4 & -1 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 1 \\ 0 & -1 & 2 & 5 & 1 \\ -1 & 0 & 4 & 4 & -2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \\ w \\ v \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ -5 \\ -7 \\ 5 \end{pmatrix}$$

(解答) (1) 左基本変形で $\begin{array}{cc|c} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 2 \\ 0 & 0 & 0 \end{array}$ となる. よって, $\begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \end{pmatrix}$. (2) 左

基本変形で $\begin{array}{ccc|c} 1 & 0 & 1 & -1 \\ 0 & 1 & 1 & -1 \\ 0 & 0 & 0 & -1 \end{array}$ となる. よって, 解は存在しない. (3) 左基本変形

で $\begin{array}{cccc|c} 1 & 0 & -1 & 2 & -1 \\ 0 & 1 & -1 & 1 & 2 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \end{array}$ となる. よって, z と w をパラメータとして, $\begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} =$

$\begin{pmatrix} -1 \\ 2 \end{pmatrix} + z \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix} + w \begin{pmatrix} -2 \\ -1 \end{pmatrix}$. (4) 左基本変形で $\begin{array}{cccc|c} 1 & 0 & -2 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 2 & 0 & 3 \\ 0 & 0 & 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \end{array}$ となる.

よって, z をパラメータとして, $\begin{pmatrix} x \\ y \\ w \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \\ 1 \end{pmatrix} + z \begin{pmatrix} 2 \\ -2 \\ 0 \end{pmatrix}$. (5) 左基本

変形で
$$\begin{array}{ccccc|c} 1 & 0 & -4 & -4 & 0 & 5 \\ 0 & 1 & -2 & -5 & 0 & 2 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 1 & -5 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \end{array}$$
 となる. よって, z と w をパラメータとして,

$$\begin{pmatrix} x \\ y \\ v \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 5 \\ 2 \\ -5 \end{pmatrix} + z \begin{pmatrix} 4 \\ 2 \\ 0 \end{pmatrix} + w \begin{pmatrix} 4 \\ 5 \\ 0 \end{pmatrix}.$$

注: 解にパラメータが存在する場合には, その選び方に依存するので解は一意ではない.

5.2 問題

次の行列が正則ならば, 逆行列を求めよ.

$$(1) \begin{pmatrix} 0 & 1 & 2 \\ 1 & 2 & 2 \\ 2 & 4 & 5 \end{pmatrix}$$

$$(2) \begin{pmatrix} 1 & 0 & -1 \\ 9 & -2 & 1 \\ 3 & -1 & 2 \end{pmatrix}$$

$$(3) \begin{pmatrix} 0 & 1 & -1 & -1 \\ 2 & -1 & 0 & 1 \\ -1 & 0 & 1 & 0 \\ 2 & -1 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

$$(4) \begin{pmatrix} 2 & 0 & 0 & 0 & 1 \\ 0 & -4 & 1 & 9 & 0 \\ -1 & 3 & -2 & -9 & -1 \\ 0 & -1 & 0 & 2 & 0 \\ 1 & -4 & 2 & 10 & 1 \end{pmatrix}$$

(解答) (1) $\begin{pmatrix} -2 & -3 & 2 \\ 1 & 4 & -2 \\ 0 & -2 & 1 \end{pmatrix}$ (2) 正則でない. (3) $\begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 & 0 \\ 2 & 2 & 2 & -1 \\ 1 & 1 & 2 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & -1 \end{pmatrix}$ (4)

$$\begin{pmatrix} 1 & 2 & 0 & -4 & -1 \\ 0 & 0 & -2 & 1 & -2 \\ 0 & 1 & 1 & -5 & 1 \\ 0 & 0 & -1 & 1 & -1 \\ -1 & -4 & 0 & 8 & 2 \end{pmatrix}$$

5.3 問題

次のベクトルについて、一次独立か一次従属か判定せよ.

- (1) $\begin{pmatrix} -2 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ -1 \\ -1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$
- (2) $\begin{pmatrix} 2 \\ -1 \\ 1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} -2 \\ 3 \\ -2 \\ -1 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ -2 \\ 1 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix}$
- (3) $\begin{pmatrix} -3 \\ 1 \\ 0 \\ 2 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ 2 \\ -2 \\ -1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} -9 \\ -5 \\ 8 \\ 10 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} -9 \\ 5 \\ -2 \\ 5 \end{pmatrix}$

(解答) n 個の列ベクトル $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n$ が一次独立であるという定義を書き直すと,

$$A = (\mathbf{a}_1 \ \mathbf{a}_2 \ \cdots \ \mathbf{a}_n)$$

と行列を定めるとき、連立一次方程式 $A\mathbf{x} = \mathbf{0}$ の解が零ベクトル $\mathbf{x} = \mathbf{0}$ のみとなることである. すなわち, $\text{rank } A = n$ となることが、一次独立であるための必要十分条件.

(1) 階数 3 なので一次独立. (2) 階数 2 なので一次従属. (3) 階数 2 なので一次従属.

5.4 補題

$m \times n$ 行列 A に対して, $AA^-A = A$ を満たす $n \times m$ 行列 A^- を A の一般逆行列という.

- (i) 一般逆行列は存在することを示せ. (ヒント: 階数標準形)
(ii) 一般逆行列の一つを A^- とするとき, 任意の $n \times m$ 行列 B に対して, $A^- + B - A^-ABAA^-$ は A の一般逆行列であることを示せ. 逆に, A の一般逆行列はすべて, このようにして得られることを示せ.

(解答) (i) 基本変形で $PAQ = \begin{pmatrix} E & O \\ O & O \end{pmatrix}$ とする. $A^- = Q \begin{pmatrix} E & O \\ O & O \end{pmatrix} P$ と置く. ここで, 真ん中の行列は, 基本変形で得られた階数標準形を転置したものである. 同じ形をしているが, もとが $m \times n$ ならば $n \times m$ になっていることに注意する. このとき, $AA^-A = P^{-1} \begin{pmatrix} E & O \\ O & O \end{pmatrix} Q^{-1} = A$ となっていることが容易に確かめられる. (ii) $A^+ = A^- + B - A^-ABAA^-$ と置くと, $AA^+A = A$

となっていることは簡単な計算で確かめられる. 逆に $AA^+A = A$ であると仮定する. このとき, $B = A^+ - A^-$ と置くと, $A^-ABAA^- = A^-(A-A)A^- = O$ である. よって, $A^- + B = A^-ABAA^-$ は A^+ に等しい.

5.5 問題

次の置換について, 偶置換か奇置換か判定せよ.

$$(1) \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 & 5 \\ 1 & 5 & 2 & 3 & 4 \end{pmatrix} \quad (2) \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 & 5 & 6 & 7 \\ 3 & 1 & 7 & 2 & 6 & 5 & 4 \end{pmatrix}$$

$$(3) \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 & 5 & 6 & 7 & 8 \\ 8 & 3 & 6 & 2 & 7 & 1 & 5 & 4 \end{pmatrix} \quad (4) \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 & \cdots & n-1 & n \\ 2 & 3 & 4 & 5 & \cdots & n & 1 \end{pmatrix}$$

(解答) 置換は左から作用するものとする. 互換の積として表す (一意ではない) と以下のようなになる. (1) たとえば $(3\ 4)(3\ 2)(2\ 5)$. よって奇置換. (2) たとえば $(5\ 6)(2\ 4)(2\ 7)(1\ 2)(1\ 3)$. よって奇置換. (3) たとえば $(1\ 4)(5\ 7)(2\ 4)(2\ 6)(2\ 3)(1\ 8)$. よって偶置換. (4) たとえば $(1\ 2)(2\ 3)(3\ 4)(4\ 5)\cdots(n-1\ n)$. これは, $n-1$ 個の互換の積である. よって, n が偶数のとき奇置換で, n が奇数のとき偶置換.